2019 年 7 月 1 日発行

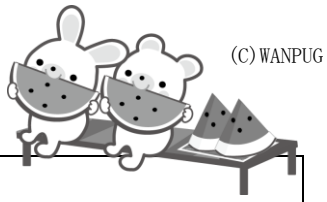
点訳通信

101号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

ある研修会で視覚障害者の手引きについて話した時の発見。

視覚障害者を見かけた時は「大丈夫ですか？」という問いかけはちょっと違うという話。理由は、そう聞かれたら、決まって「大丈夫です」と答えてしまうから。もっと具体的に「どちらへ行かれますか？」とか「お手伝いしましょうか？」という具合に声をかけていただきたいとお伝えしたところ「ああ、そうですね。外国でも『Are you all right?』とは聞かずに『Can I help you?』と聞きますもんね」と納得してくださいました。確かにそうだと私も腑に落ちた言葉でした。そういえば先日、しずしず歩いていると「どこかへ行きますか？」とたずねられました。おそらく「どちらへ行きますか？」と言いたかったのだろう…。　（点字製作係　奥野真里）



【 休館・休室等のお知らせ 】

７月１３日（土）	開室（休館日ですが、点字製作係は開室します）
８月１０日（土）	休館（山の日の振替休日）
８月１３日（火）～１５日（木）	夏期休館
９月１４日（土）	開室（休館日ですが、点字製作係は開室します）
９月１７日（火）午後	休室（法人職員研修会のため）

みるみる進化する点図ソフト「エーデル」
～エーデルの使い方勉強会の報告～

６月１１日（火）・１４日（金）に、エーデル勉強会を開催しました。各グループから２～３名ずつ参加し、延べ２０名となりました。今回の勉強会では、一からエーデルの操作を学ぶのではなく、すでにエーデルを使ったことのある方が、点図を描く技術をブラッシュアップしたり、便利な機能や操作方法などの情報交換を行いました。

前半は、原本の視覚的なレイアウトに引っ張られず、触って理解しやすい点図とは何かを、触読者の立場で小原職員がお話しました。後半は、実際にエーデルの使い方に関する実技を行いました。

【エーデルで作成したデータの保存形式について】

現在、エーデルの最新バージョンは 9.14 です。Ver.7 以降のエーデルには種々の機能が追加されており、hEBK 形式という、より高度な触図データが作成できるようになっています。ですが、現状ではサピエ図書館には hEBK データを登録することができませんので、当館では、

■サピエ図書館にデータを登録する蔵書は、EDL 形式か EBK 形式のデータとして作成する。

■サピエ図書館にデータを登録しない教科書・教材などは、最新の hEBK 形式のデータとして作成する。

というように、点訳する資料によって、エーデルで作成するデータ形式を分けています。

【蔵書製作と教科書製作での図の取り組み方の違い】

そもそも、蔵書と教科書では対象となる読者が少し異なります。蔵書は（ジャンルによって違いはありますが）子どもから大人まで不特定の人が読むことが考えられます。点図の好きな人もいれば、苦手な人もいることを考慮して、図の処理方法を考えます。それに対して、教科書は使用者の年齢や学年が明確で、知識や情報を得る学齢期の子どもが使用するものです。特に、当館では目の見える子どもと共に学ぶ視覚障害児童・生徒のための点字教科書や教材を製作しており、時にはあえてデフォルメ化

せずに、原本に忠実に描くことを優先することもあります。

このように、目的や対象者が異なると、図の処理も大きく変わります。

【エーデルを含む図書を製作する際の注意点】

１．EDL と BES の編集について

１タイトル中で少数枚の図を含む場合、文章は「点字編集システム」で BES データとして、図は「エーデル」で EDL（単一ページ）データとしてそれぞれ完成させます。

BES データは、EDL データを差し込むページを白紙ページにしておきます。ただし、差し込む内容が分かるように、「図１　スマホの利用者数」のようにタイトルなどを該当ページに書きます。また、両面データの場合は図の裏ページは白紙にしますので、合わせて２ページ分白紙を作ります。

EDL データには、挿入するページ番号を忘れずに入力します。

２．EBK と BES の結合

１タイトル中に多くの図がある場合、文章は「点字編集システム」（BES データ）、図は「エーデル」で EBK データ（エーデルブック）として作成します。

それぞれのデータが完成したら、EBK データに BES データを取り込んで結合し、１巻ごとに１つの EBK データとして完成させます。

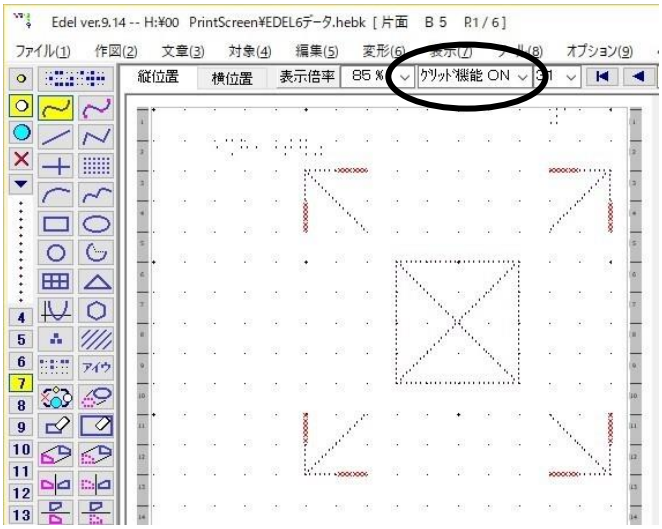
ただし、結合後の EBK データは文章の修正ができませんので、文章を修正する場合は、BES データを修正してから、再度、EBK データと結合する必要があります。

３．hEBK と BES の連動

２．と同じ手順で、hEBK データに BES データを取り込んで結合し、１巻ごとに１つの hEBK データにすることができます。また、エーデル上の BES 編集機能を使って文章を修正することができます（BES 編集ソフトウェアを起動させるために「エーデル」の設定を変更する必要があります）。

また、文章部分を修正した hEBK データから、BES データだけを抽出・保存することもできます。この時の注意点は、hEBK から抽出した修正後の BES データと、hEBK データに取り込む前の BES データ（修正されていない元データ）を混在しないよう、しっかりとデータを管理しなければならないということです。

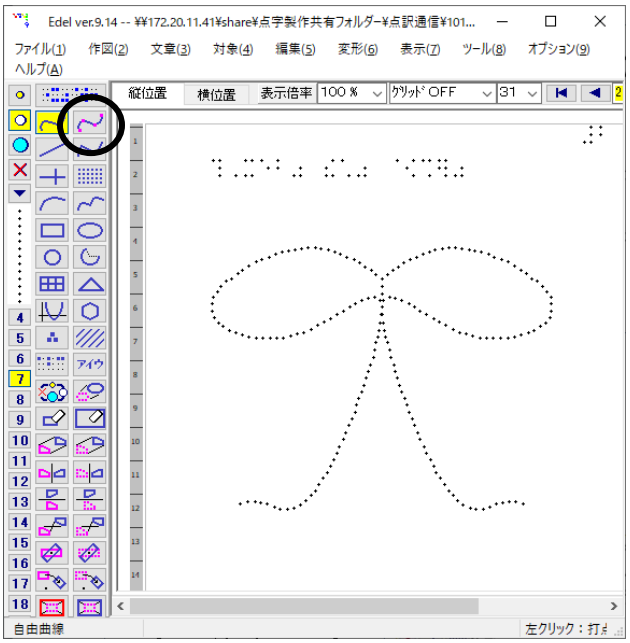
【エーデルの便利な機能の例】



1．グリッド線（Ver.6～）

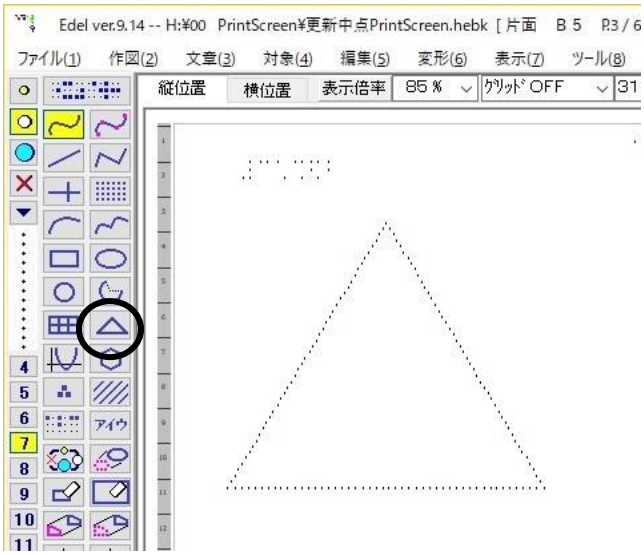
一定の間隔がメモリで表示され、正確な角度で描ける。矢印を描くのにも便利。

※ 実際にグリッド線は点字では印刷されません。



2．スプライン補間曲線（Ver.7～）

マウスで連続して複数の点を打っていくと、点と点との間をなめらかな曲線で結んでくれる。

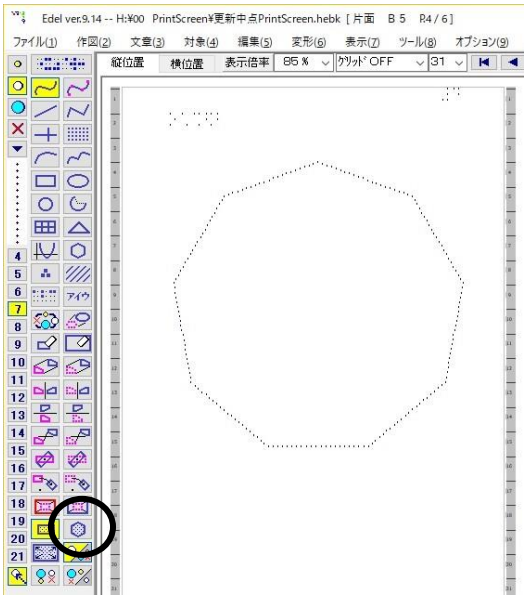


3．正三角形（Ver.8.13～）

２番目の頂点を打ち、３番目の頂点を指定する前に ctrl キーを押すと、正三角形になる。

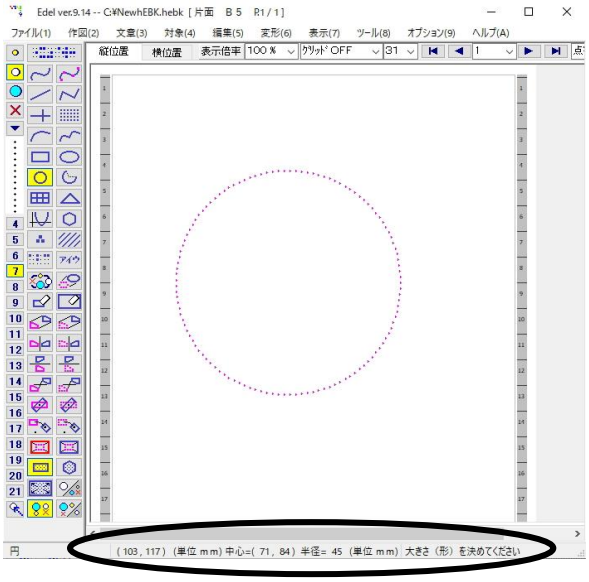
４．正多角形（Ver.9.08～）

正三角形から正十二角形まで描ける。



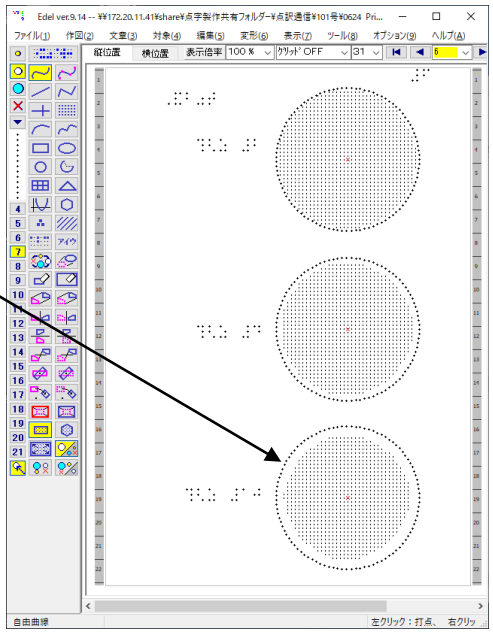
５．座標値（Ver.9.09～）

点の座標や円の半径を、mm 単位で設定することができる。



６．輪郭線とペイントの隙間（Ver.9.14）

輪郭線とペイントで埋めた点との隙間を、９段階で設定できる。



【データを仕上げる際の注意点】

１．点図の見直し

４～５ページの例の内容は、作図の過程の一部に過ぎません。データ完成までには、多くの微調整が生じます。画面で見るときれいに描けていても、実際に点字プリンタで印刷すると、微妙に点がずれていたりします。必ず点字印刷して確認するようにしてください。

２．図のページ付

両面データの場合 ： 必ず図は奇数ページに作り、裏ページ（偶数ページ）は白紙にしておきます。

片面データの場合 ： 図は奇数・偶数、どちらのページでもかまいません。次のページに図や文章を入れることができます。

３．最終的に提出するファイル形式

蔵書の場合 ： EDL データと BES データ。もしくは、EBK データと BES データ

教科書・教材の場合 ： hEBK データと BES データ（最終版の hEBK データから抽出したもの）

【おまけ】

勉強会前まで、私たちは EDL、EBK データは「エーデル」バージョン 6 でしか作成・修正できないと思っていました。蔵書は Ver,6、教科書は Ver.9 というように、2 つの「エーデル」のバージョンを使っていたのですが、勉強会で、「エーデル」バージョン 9 でも EDL、EBK データの作成・修正ができることがわかりました。今後は、蔵書の点訳をされる方も、「エーデル」バージョン 9 をご使用いただいてよいと思います。ただし、前述した通り、hEBK データはサピエ図書館に登録できませんので、蔵書のデータは EDL もしくは EBK で作成してください。

【エーデル勉強会に参加した方の感想】

「わかりやすい触図作りを目指して」

今回のエーデル勉強会の内容についていけるか不安でしたが、せっかくの機会…

と蔵書用の勉強会に参加させていただきました。

火曜午前の小原さんの講義「触図作製のポイント」では、触図やエーデルの基本的なお話が多かったのですが、まだまだ知らない知識や決め事があることと、これまで無意識に作図してきたのだなと改めて感じました。まず、「触図」を描いているということを、もっと意識しなければと思いました。今まではできるだけ原本や下絵の通り忠実に描こうとしていましたが、細かい原図をそのまま触図化しても触覚では判別しづらく、邪魔な情報にさえ成り得るとのお話に、触図というより、目で見る図を描いていたのだと反省しました。また、点訳者とエーデル作成者が違う場合、たまに本の内容と噛み合わない図があるというお話を聞き、どれだけその内容を理解して、また理解してもらえるように描いてきたのだろう、それらしく描けたら OK としていたのでは、と自問しました。

金曜午後の蔵書用エーデルに関する勉強会では、パソコンが用意されお話を聞きながら作図もしました。グラフを描くときは補点を使うと作業しやすい、円グラフを描くときは中心点を表示する、矢印はグリッド機能を使って作るなど、驚きの発見がたくさんありました。それから、エーデルブック作成の説明を受け、その操作を初めてやってみました。まだマスターしたとは言えませんが、今後の作業に活かしたいです。

日頃、自分の決まった操作方法で作図をしてしまいがちですが、今回の勉強会をきっかけに、エーデルのいろいろな機能を試してみようと思いました。そして、「分かりやすい触図の作製」を常に心がけて取り組みたいです。

「再発見から学んだこと」

久しぶりにエーデル勉強会に参加しました。午前は、小原さんによるエーデル全般についての勉強会。知っていることが多いかなとのんびりモードで座っていましたが、点種の区別の仕方や、凡例の書き方など、忘れていることもたくさんありました。最初にエーデルを使った時から、私はエーデルで図を描くことがとても面白く、時間に余裕のあるときは何時間でも夢中になって、締め切りが迫っている時もそれなりに、パソコンに向かって図を描いてきました。一緒に作業をしている人たちと「こんなん描いてん」「えー、すごいやん！」というやりとりをしながら。でもお話を聞いていて、きれいな図を描くことに夢中になって利用者の方を置き去りにしていたのではないかなと思うところがありました。考えているつもりでしたが、「利用する人の状況をよく考えて」の視点がいつの間にか後回しになっていたなと深く反省です。図を補う説明文は図全体の半分くらいの重要性があるという事も、知っていたはずなのに図を描くことに一生懸命で、すべてを図で分かってもらおうとしていたかもしれません。

午後からは、教科書製作で使うエーデルの勉強会でした。Ver.9.14 は、すでに利用していますが、新しく便利な機能が色々とあります。今回の勉強会でも下絵を取り込むときの工夫点や、２枚の図をきれいにつなぐ方法などを教えていただきました。講

師の皆さんも熱心にたくさん資料を準備してくださって一緒にパソコンを操作しながら勉強できてよかったと思います。

「内容をよく理解して、原本と全く同じである必要はない、墨字よりも分かりやすい図」。難しいですがこれからも勉強会でのお話を思い出しながら、取り組んでいきたいです。

２０１９年度 点訳ボランティア養成講習会のご案内

『点訳のてびき』が第４版に改訂されて、初めての点訳ボランティア養成講習会になります。お近くに点字に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ本講習会をご案内ください。

なお、要項や申込書については点字製作係にお問合せいただくか、当館のホームページからもダウンロードしていただけます。

目　　的：正確な点字図書の製作に必要な知識と技術の習得
講習日時：（初級コース）２０１９年１０月１１日～１２月２０日
全１１回　毎週金曜日　１０時～１２時
※中級コースは試験を挟んで、２０２０年1月１０日～3月２７日
全１１回の予定です。
場　　所：日本ライトハウス情報文化センター　４階会議室
定　　員：１０人（講習会前に試験があります）
受 講 料：無料。但し、テキスト『点訳のてびき第４版』の代金
１４００円（税別）は、自己負担となります。
講習内容：（１）初級コース　点字の読み書きと点訳のルール、語彙の調査方法などの基礎実習
（２）中級コース　図書の点訳に必要な技術講習と、パソコン点訳の実践の導入、読者である視覚障害者理解
申込方法：申込書にご記入の上、FAX またはメールでお送りください。
申込締切：２０１９年8月３０日（金）必着

【オリエンテーションおよび試験について】

点訳ボランティア養成講習会の受講を希望される方には、事前にオリエンテーションおよび簡単な試験を受けていただきます。

日　　時：2019 年９月 13 日（金）１０:００～１２:３０